

高熱後に全身の発疹と浸出症状が広がり 5 か月で皮膚状態が安定した幼児アトピーの経過 (2 歳男児)

症例 ID：001-02-YY | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

1 歳 2 か月頃、39 度台後半から 40 度を超える発熱が約 1 週間続き、解熱後に全身へ発疹が出ました。小児科ではとびひ、皮膚科では乳児湿疹と診断されました。

顔、耳、背中では浸出液を伴い、下着が固くなるほどでした。夜間のかゆみで眠れず、一晩中抱いて過ごすこともありました。ステロイド外用薬を約 1 か月使用しましたが症状が続き、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	全身の皮膚症状に対し、薄いステロイド外用薬を 1 日 1～2 回使用しました。
製品名	不明です。
強度	弱い薬と説明されましたが、詳細は不明です。
使用期間	約 1 か月です。
中止時期	松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に使用しました。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
1 歳 2 か月頃	発症	高熱が約 1 週間続いた後、全身に発疹が出ました。
その後約 1 か月	来院前	ステロイド外用薬を使用しましたが、顔・耳・背中の浸出症状が続きました。
治療開始後 2 週間	初期変化	顔の赤みが一時的に引き、皮膚が乾燥しました。
開始約 1 か月半	リバウンドの強い時期	全身の浸出液と出血が強く、顔はやけどのように赤くなりました。
開始約 5 か月	皮膚の変化	全身の症状がほとんど目立たなくなり、皮膚は滑らかな状態になりました。
開始約 6 か月	生活変化	漢方入浴は 1 日 1 回となり、かゆがることなく元気に過ごしていました。
その後	通院終了	皮膚症状が落ち着き、継続的な来院はなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始から約 1 か月半までに、全身から浸出液と血が出て、特に顔の赤みとただれが強くなった時期です。

5. 困りごと

- 夜間のかゆみで眠れず、一晩中抱いて過ごすことがありました。
- 1 日 2～3 回、各 1 時間の入浴と外用処置を続ける必要がありました。
- 外出時に周囲の視線や言葉を受け、保護者の精神的負担が大きくなりました。
- 保護者の入院中は家族が治療を引き継ぎました。

6. 経過のまとめ

強い全身症状と約1か月半のリバウンドを経ましたが、治療開始約5か月後には皮膚が滑らかな状態となりました。約6か月後にはかゆがることなく元気に過ごし、その後は皮膚症状が落ち着いて継続的な来院はなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。